

St. Luke's International University Repository

COVID-19感染拡大下における看護学教育に関する 官公庁等の動向と学生が認識した臨地実習での学習 経験

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-09-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦, 友理子, Miura, Yuriko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016514

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



【特集：COVID-19と看護実践】

COVID-19感染拡大下における看護学教育に関する 官公庁等の動向と学生が認識した臨地実習での学習経験

三浦友理子

I. はじめに

COVID-19の感染が世界中で拡大するなか、人々の生活と同様に、看護学教育にも新たなありようへの変革が求められている。

感染症の拡大を受けて、国際看護師協会(International Council of Nurses ; ICN) は、主要20か国・地域(G20)のリーダーに向けて看護職の人権や安全を確保するための行動要請を発信した(International Council of Nurses, 2020)。この行動要請には、個人防護具の確保、確かな知識の提供、健康管理、看護職員の配置、新たなケアモデル開発の奨励等、12にわたる要請が記載されている。このような医療提供システムの危機を背景に、米国看護系大学協会(American Association of Colleges of Nursing ; AACN) では、2020年3月にCOVID-19感染拡大下における看護学教育の質の維持に向けた大学の意思決定をサポートする声明を発表した(American Association of Colleges of Nursing, 2020a)。この内容は、臨床で行う以外のコースの授業の方法(対面授業や大人数ミーティングの回避)、看護学生が臨床スタッフとして活動をする際の意思決定の留意点、個人防護具が必要な実習の延期、感染管理や予防に関する学習を充実させること、感染者への対応手順、精神的サポート、疾病対策予防センターをはじめとした参照できる情報リソース等が記載されている。さらに、7月には、大学再開に向けた考慮事項が発表され、キャンパスのリスクアセスメント、学習活動の段階的再開、キャンパスで感染が確認された際の対応、検査方針等が追加され、さらに具体的な視座が示された(American Association of Colleges of Nursing, 2020b)。本稿では、COVID-19感染拡大下における、わが国の看護学教育にかかわる主な官公庁と日本看護系大学協議会の対応の動向を通達や事務連絡を通して概観する。

さらに、看護学教育において必須な学習として位置づけられてきた臨地実習は、COVID-19の感染拡大により非常にハードルの高い学習方法となった。感染拡大が著明な地域、重症患者受け入れ人数の絶対数が少ない地域では、さらに臨地実習の実施が困難な状況である。2月には、厚生労働省、ならびに文部科学省より臨地実習の

代替授業についての方針が通達された(厚生労働省, 2020a)。これを受け、各看護系大学では、オンラインでのシナリオをベースとした学習やシミュレーション等の学内実習によって、科目目標にかなう代替授業を行う努力がなされているが、これらの影響や効果については模索段階である。そこで、このような議論の端緒として、本稿では学習者が認識した臨地実習とシミュレーションにおける学習経験の違いを提示し、各学習方法の強みについて検討する。

II. 本 論

1. COVID-19感染拡大下における、わが国の看護学教育にかかわる主な官公庁と日本看護系大学協議会の対応の動向

2020年1月下旬、国内で初めて新型コロナウイルスへの感染者が確認されて以来、感染者は徐々に増加し、4月7日には7都府県に、同16日には全国に緊急事態宣言が発令された。これに伴い各大学では、学事の中止や縮小、授業形態の変更等を行いながら、教授—学習活動を継続してきた。5月25日に宣言は解除されたが、新たな生活様式により感染拡大を防ぐ工夫は現在でも不可欠なものとなっている。

2月28日、厚生労働省と文部科学省(厚生労働省, 2020a)は「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」通達を行った。実習中止や休講の影響によって学生間に修学の差が出ないように配慮すること、教員の充当、実習施設変更時の承認時期の弾力化、実習施設の代替が困難である場合に演習または学内実習を実施することで学習内容を修得することを認めること、実習中止、休講等が生じ、授業の実施期間が例年に比べて短縮された場合であっても、当該学校養成所等において必要な単位もしくは時間を履修し、または当該学校養成所等を必要な単位もしくは時間を履修して卒業(修了)した者については、従来どおり、各医療関係職種等の国家試験の受験資格が認められることが示された。さらに、緊急事態宣言解除に伴う学校等の再開の動きに向けて、6月1日、2月の事務連絡に追加する形で十分な感染予防について配慮を求めた(文部科学省, 2020)。追加された事項

としては、遠隔授業の活用や授業の弾力的な取り扱い、実習等に関する各学校養成所等での実践事例であった。また、6月22日には厚生労働省（厚生労働省、2020b）より、「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について」事務連絡があった。内容としては、教育内容の減縮をせず臨地での実習を可能な限り実施するための滞在時間の調整、学内演習の実施、多様な場での臨地実習の実施等について記載がなされている。同時に、保健師養成所における実習時間短縮時の対応、助産師養成所における分娩取扱い件数の考え方等が示された。

このような官公庁の方針の下、日本看護系大学協議会（2020a）では、3月10日、「新型コロナウイルス感染拡大にかかる対応について」情報提供を行っている。その内容は、学生に対する感染予防や体調管理の徹底への啓発、教職員に対しては、感染対策を行いつつ看護学教育の質を保証する教育活動の継続に関連する各種情報源を提示するものであった。さらに、感染下における看護系大学への影響および対応に関する調査を開始し、3月17日に調査結果第1報（日本看護系大学協議会、2020b）を、4月7日に第2報（日本看護系大学協議会、2020c）を報告した。調査結果は、感染者発生時の対応準備、授業の変更に関する事項、実習の実施状況、就職に関する課題、感染予防に関する学生への働きかけ、研究活動の実施状況等について等多岐にわたる。これらの調査結果を受け、8月には「新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨地実習に影響を受けた令和3年度新人看護職研修の支援に関する要望書」（日本看護系大学協議会、2020d）を厚生労働省医政局長に、9月には「ウィズコロナ時代の看護学教育の質担保に向けた教育環境整備に関する要望書」（日本看護系大学協議会、2020e）を文部科学大臣に提出した。9月の要望書には、①新型コロナウイルス感染拡大下で看護学教育の質担保に向けた教育環境整備への助成、②看護学生の安心・安全な看護学実習を可能とするための予算措置、③大学院教育や看護学研究への理解と研究実施への弾力的対応について言及されている。

看護系大学における感染症拡大の状況下において、臨地実習の実施と、臨地での実習時間が短縮されることでの国家試験の受験資格取得に対する影響は看護学教育において大きな関心事となった。これに対して、2月の通達において基本方針が示されたことは各大学の方針決定に有意義なものであった。前例がない状況において、授業における対応を決定し準備するまでには、多くの時間を要する。重要事項の早期の方針決定により、教育の質を低下させない教育活動が実現すると考える。

2. 学習者が認識した臨地実習とシミュレーションにおける学習経験の特徴

筆者は今年度、3年次編入4年生の総合実習を担当した。これは9～10月に行われる実習であり、臨床看護師

への移行を支援するために優先順位の決定やチームワークについて学習することを目的としている。この実習は例年3週にわたり臨地で学習する実習であるが、今年度は対面でのシミュレーションと、臨地実習によって実施した。この実習においては、シミュレーションと臨地実習の両方で学んだことで、臨床看護に対する準備性が高まったという感想があった。以上の経験から、看護実践能力を育成することに向けた各学習方法における学習経験の違いを把握することで、臨地実習の代替授業を構築する際に活用できる知見が得られると考え、学生へのインタビューを実施した。

1) 調査の方法

インタビューは、シミュレーションと臨地実習において、学習者自身が得た学習経験の性質の違いを整理し記述することを目的とした。インタビューは、シミュレーションと臨地実習で学ぶことができたと感じている内容を10～15分で遠隔会議システムにて話してもらった。得られたデータは、質的帰納的に整理した。協力者への倫理的配慮として、本科目の成績が確定した後インタビューを依頼した。また、①研究への協力は任意であり、不参加による不利益は一切ないこと、②個人が特定されない情報の取り扱い、③個人情報保護と管理、④学術雑誌に投稿することを説明し同意書に署名をもらった。最後にインタビューに基づいて記述した本文を確認してもらい、投稿への許可を得た。

2) インタビューの結果—学習者が認識したシミュレーションと臨地実習での学習経験の特徴

(1) シミュレーションでの学習経験と方法論の特徴（表1）

シミュレーションでの学習経験と方法論の特徴として、【実践の詳細にわたり強みと改善点を認識できる】【時間的な制約があるときの自分の実践と対処行動を客観視できる】【看護師が遭遇する典型的な場面の実践を網羅的に学ぶことができる】【現場より緊張しないため前向きに取り組め、達成感が得やすい学習方法である】ことが示された。

シミュレーションは、学習内容が焦点化されており、実践時間が短く、パフォーマンスを多くの人が観察している。そのため、学習内容となっている実践について詳細なレベルで、認知、技術、態度側面にフィードバックを受けることができる。「一挙手一投足のレベルで自分でも気づかない部分まで詳細に学ぶことができる」という発言があった。これはスキルベースのみならず状況ベースのシミュレーションであっても同様であると述べられていた。また、時間的な制約があった際の自分の対処特性（たとえば、焦ってしまう、手指消毒などの基本的な実践が抜けやすくなる）等への気づきを得ている。

さらに、場面が切り出せるため、多様なバリエーションの実践に触れることができる。臨地実習では継続して少数の患者に接することが多いが、シミュレーションで

表1 シミュレーションでの学習経験と方法論の特徴

特徴	インタビューで得られた発言
実践の詳細にわたり強みと改善点を認識できる	多様な人からのフィードバックを得られる 自分の得意、改善点を自分の気づかない部分まで詳細に学べる 実習までに技術を向上させる必要があるという心構えができる
時間的な制約があるときの自分の実践と対処行動を客観視できる	限られた時間内での看護について経験できる 限られた時間内で看護を行うときの自分の対処行動の特徴や反応について気づくことができる
看護師が遭遇する典型的な場面の実践を網羅的に学ぶことができる	重要な場面をピックアップして学べる 実習では経験できない場面を経験できる 網羅的に集中的に実践を学ぶことができる
現場より緊張しないため前向きに取り組め、達成感が得やすい学習方法である	緊張度が現場より低いためこれまでの学びを実践に結びつける学習が落ち着いてできる 失敗が許される状況のため挑戦する気持ちをもつことができる 同じ場面に挑戦して、できなかったことを解決できた達成感を得る

は多様な看護の対象者が設定できる。そのため、看護師が遭遇する典型的な場面での実践を数多く経験できる利点が認められた。加えて、見慣れた教授スタッフのなかで行うことや、失敗が許容される環境であることで、思考や技術の練習に落ち着いて取り組むことができ、十分に試行錯誤できる状況があったとのことであった。学習内容が限定されていることや2回目の挑戦ができることも含めて、学習者が達成感を得ることにつながったことが語られた。

(2) 臨地実習での学習経験や方法論の特徴 (表2)

臨地実習での学習経験や方法論の特徴として、【膨大な情報群から必要な情報を得る練習ができる】【患者らしさを反映したベストな看護を探究できる】【予測できない患者の反応に対応する経験と実践への心構えができる】【現場での意思決定方法や協働の具体的方法がわかる】【本物に対応する緊張感があり経験のバリエーションは限定される学習方法である】ことが示された。

実践現場での学習は、看護の対象者が実在しているということに特徴がある。インタビューでは、情報量が膨大であるため既存の情報から重要な情報を選択する力、また対象者から新たな情報を得てくる力も必要とされると述べられている。「シミュレーションではカルテなどが準備されていても情報はすぐに把握できる程度、実際の患者の情報量の多さや、情報が点在していることで患者への把握が急に難しくなる」「本物の患者からは、自分が聞きたいことが必ずしも返答されるとは限らない」「肺

表2 臨地実習での学習経験と方法論の特徴

特徴	インタビューで得られた発言
膨大な情報群から必要な情報を得る練習ができる	膨大な情報から重要な情報を選択する練習ができる 必要な情報を自ら探しとってくる練習ができる
患者らしさを反映したベストな看護を探究できる	患者の背景等のリアルな状況から患者らしさを反映した看護を創造できる 人となりを反映した看護を実践する自分の信念が磨かれる 答えが決まっていない状況でベストな看護を探究できる
予測できない患者の反応に対応する経験と実践への心構えができる	生の患者の思いがけない反応に瞬時に対応する経験から実践知を得る 患者に対して結果が出るように看護する責務を感じる
現場での意思決定方法や協働の具体的方法がわかる	現場の状況を反映した実践が学べる看護行為を決定する多様な要因について学ぶ 状況のなかでの自分の技術のレベルを認識できる 看護師と共に看護していると感じ看護職への所属感が高まる 看護師と情報共有するコツを学ぶ(構成やタイミング)
本物に対応する緊張感があり経験のバリエーションは限定される学習方法である	本物だけに緊張感を伴う学習である経験できる技術は限られる

の音を聞いてもそれが何の音なのか判断が難しく、本当に聞いているのかという疑問が残る」など、重要な情報の把握や現象の情報化に挑戦していることが示された。

また、患者のこれまでの生活や人生を詳細に把握することができるため、対象者への最適を探究できる機会となっていた。さらに、患者の反応は思いがけないものが多く、その場で対応することの積み重ねが実践知となることや、結果につながる看護を行うことへの心構えができていた。加えて、実習では臨床看護師との協働場面が多く、現場での判断基準について学び、有効な情報のやりとりについて繰り返し実践し、コツを把握することができた。学習方法の特徴としては、本物であることで失敗できないという緊張感や、少数の対象者を担当することが多く実際の経験のバリエーションは限られていることが示された。

3) インタビューのまとめ

インタビューの結果から、シミュレーションでより学習できることとして、多様な場面での実践対応、実践の細部にわたる改善部分(思考、技術、態度にかかわらず)の把握、時間切迫場面での自らの対処特性が挙げられる。また、臨地実習では、患者を理解するための情報の選択と本物の対象者からの情報収集、患者にコミットメ

ントし看護を創造する醍醐味が味わえること、チームで実践していく際のコミュニケーションや意思決定について経験できることが示唆された。

インタビューのなかで「シミュレーションにはおおよその答えがある、臨床ではその判断が合っているか看護師ですらわからない状況で患者の反応を探りながら実践を行う、ここに実習の意味と難しさを感じた」との発言があった。シミュレーションの「多様な場面に対する確実な基礎力の蓄積」という強みと、臨地実習の「人々に対する状況のなかでの看護実践能力の発揮」という強みの把握ができたと考える。これらを、臨地実習を代替する場合の学習内容、方法、教材の工夫へ反映させることにより、学習内容を減縮しない教育にヒントが得られるのではないだろうか。

Ⅲ. おわりに

COVID-19感染拡大下の看護学教育に関連する官公庁や日本看護系大学協議会の動向を概観し、看護学教育の統合に位置づけられる臨地実習での学習経験について検討した。

Ramanら(2019)は、臨地実習の25%をハイフェデリティ・シミュレーション(忠実度の高いシミュレーション)に置き換えた実習では、知識と実践能力に差はなかったことを示した。また、The NCSBN National Simulation Study(2014)では、臨床実習時間の25~50%をシミュレーションに置き換えても、看護学の知識(テスト得点)、看護師国家試験(NCLEX)の初回受験合格率、看護師として就職してから6か月経過するまでの職場での評価に有意差がなかったことが報告されている。これらから、現場にいる時間を規定することで臨地実習における学習の質の保証を行うことの意味合いを検討し直す必要性が示唆される。

看護系大学の卒業生は、将来看護の質と対象者の安全を担保する実践の担い手となる。2020年度の看護学教育における経験を生かし、より看護実践能力を獲得できる学習経験や学習のステップはどのようなものなのか検討する契機としたい。

引用文献

American Association of College of Nursing (2020a) : *Considerations for COVID-19 Preparedness and Response in U. S. Schools of Nursing*. American Association of College of Nursing ホームページ, <https://www.aacnursing.org/Portals/42/AcademicNursing/pdf/Considerations-for-COVID19-Nursing-Schools.pdf> (2020/10/25).

American Association of College of Nursing (2020b) : *Considerations for Reopening U. S. Schools of Nursing During COVID-19*. American Association of College of Nursing ホームページ, <https://www.aacnursing.org/Portals/42/News/AACN-Guidance-Reopening-Schools-COVID->

19-July-2020.pdf (2020/10/25).

International Council of Nurses (2020) : *ICN Call to Action COVID-19*. International Council of Nurses (ICN) ホームページ, https://www.icn.ch/system/files/documents/2020-04/ICN%20briefing_COVID19_Top_priorities_ENG.pdf (2020/10/25).

厚生労働省 (2020a) : *新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について(2月28日事務連絡)*. 厚生労働省ホームページ, <https://www.mhlw.go.jp/content/000603666.pdf>. (2020/10/25).

厚生労働省 (2020b) : *新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について(6月22日事務連絡)*. 厚生労働省ホームページ, <https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf> (2020/10/25).

文部科学省 (2020) *新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について(6月1日事務連絡)*. 文部科学省ホームページ, https://www.mext.go.jp/content/20200603-mxt_kouhou01-000004520_2.pdf (2020/10/25).

日本看護系大学協議会 (2020a) : *新型コロナウイルス感染拡大にかかる対応について*. 日本看護系大学協議会ホームページ, <https://www.janpu.or.jp/file/20200310JANPU-coronavirus.pdf> (2020/10/25).

日本看護系大学協議会 (2020b) : *新型コロナウイルス感染拡大にかかる、看護系大学への影響及び対応に関する調査結果*. 日本看護系大学協議会ホームページ, <https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/03/coronavirus-cyousakekka.pdf> (2020/10/25).

日本看護系大学協議会 (2020c) : *新型コロナウイルスの感染拡大にかかる看護系大学への影響及び対応に関する調査結果第2弾*. 日本看護系大学協議会ホームページ, <https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/04/coronavirus-cyousakekka2nd.pdf> (2020/10/25).

日本看護系大学協議会 (2020d) : *新型コロナウイルス感染症拡大の影響により臨地実習に影響を受けた令和3年度新人看護職研修の支援に関する要望書*. 日本看護系大学協議会ホームページ, <https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/08/youbousyo-MHLW20200825.pdf> (2020/10/25).

日本看護系大学協議会 (2020e) : *ウィズコロナ時代の看護学教育の質担保に向けた教育環境整備に関する要望書*. 日本看護系大学協議会ホームページ, <https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/10/JANPUyoubousyo-MEXT.pdf> (2020/10/25).

Raman S, Labrague LJ, Arulappan J, et al.,(2019) : Traditional clinical training combined with high-fidelity simulation-based activities improves clinical competency and knowledge among nursing students on a maternity nursing course. *Nursing Forum*, 54 (3) : 434-440.

The NCSBN National Simulation Study (2014) : *A Longitudinal, Randomized, Controlled Study Replacing Clinical Hours with Simulation in Prelicensure Nursing Education*. https://www.ncsbn.org/JNR_Simulation_Supplement.pdf (2020/10/25).